

## 米国農務省穀物等需給報告(2008年1月11日発表のポイント)

米国農務省は、1月11日(現地時間)に2007/08年度9回目(大豆については8回目)の世界及び主要国の穀物・大豆の需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

〔 2007/08年度の穀物の生産量は前年度に引続き消費量を下回り、大豆の生産量も消費量を下回る見込み。 〕

### 1. 世界の穀物需給の概要(見込み)

- ① 生産量:20億7,521万t(対前年度比 4.2%増)
- ② 消費量:21億254万t(対前年度比 2.8%増)
- ③ 期末在庫量:3億909万t(対前年度比 8.1%減)  
    期末在庫率:14.7%(1.8ポイント減)

#### 【主な品目別の動向】

##### ○ 小麦

- ① 生産量:6億300万t(対前年度比 1.6%増)…米国、オーストラリア等で増加
- ② 消費量:6億1,645万t(前年度並)
- ③ 期末在庫量:1億1,093万t(対前年度比 10.8%減)  
    期末在庫率:18.0%(2.2ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:大きな修正なし

##### ○ とうもろこし

- ① 生産量:7億6,672万t(対前年度比 8.9%増)…米国、カナダ等で増加
- ② 消費量:7億7,272万t(対前年度比 7.3%増)…世界的な飼料用需要の増加に加え、米国内でエタノール需要が増加
- ③ 期末在庫量:1億133万t(対前年度比 5.6%減)  
    期末在庫率:13.1%(1.8ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:米国の生産量の下方修正及び消費量の上方修正、それらに伴う期末在庫量の下方修正

### 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

- ① 生産量:2億2,034万t(対前年度比 6.5%減)…米国等で減少
- ② 消費量:2億3,526万t(対前年度比 4.7%増)…世界的な搾油需要の増加
- ③ 期末在庫量:4,624万t(対前年度比 24.9%減)  
    期末在庫率:19.7%(7.7ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:大きな修正なし

(参考1)

平成20年1月15日  
総合食料局食料企画課

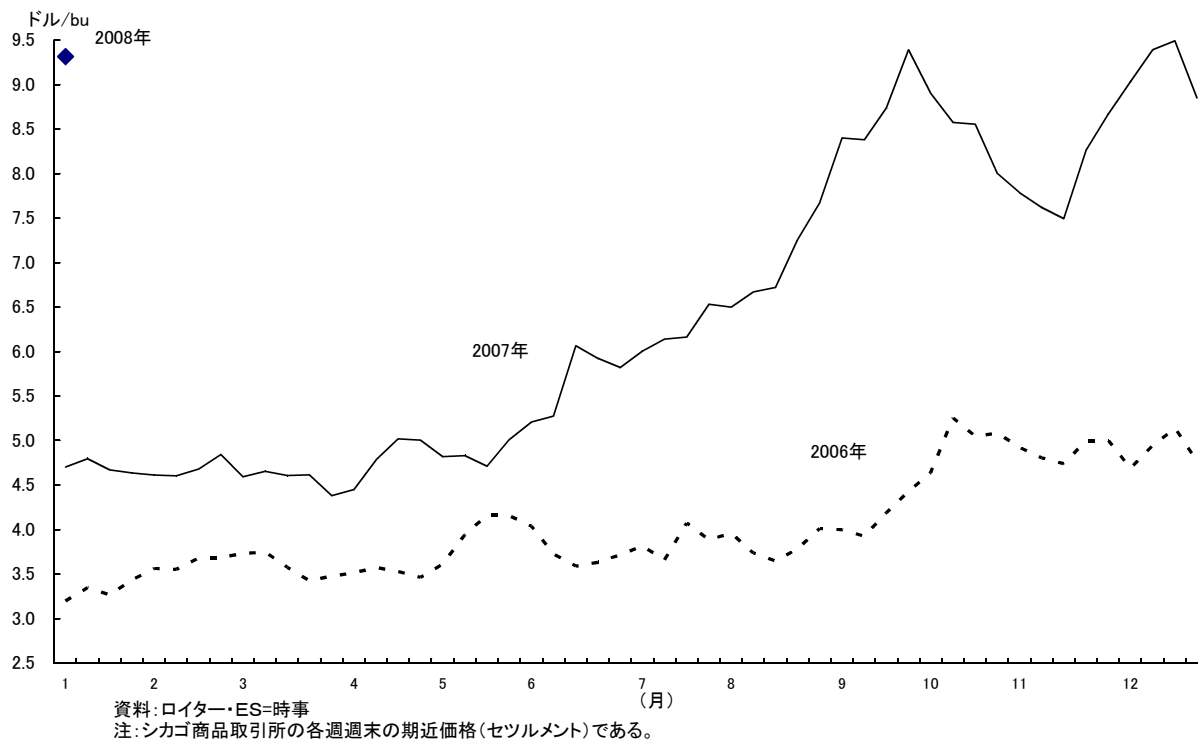
## 世界の穀物の価格動向(2008年)

(穀物価格は、シカゴ商品取引所における1月第1週末の期近価格である。)

### ● 小麦:9.32ドル/bu(前年同時期の価格:4.70ドル/bu)

2006年は、9月中旬以降、オーストラリアの干ばつによる減産懸念等により値を上げ、その後、米国等における来年度増産見込み等により水準を下げながら推移した。

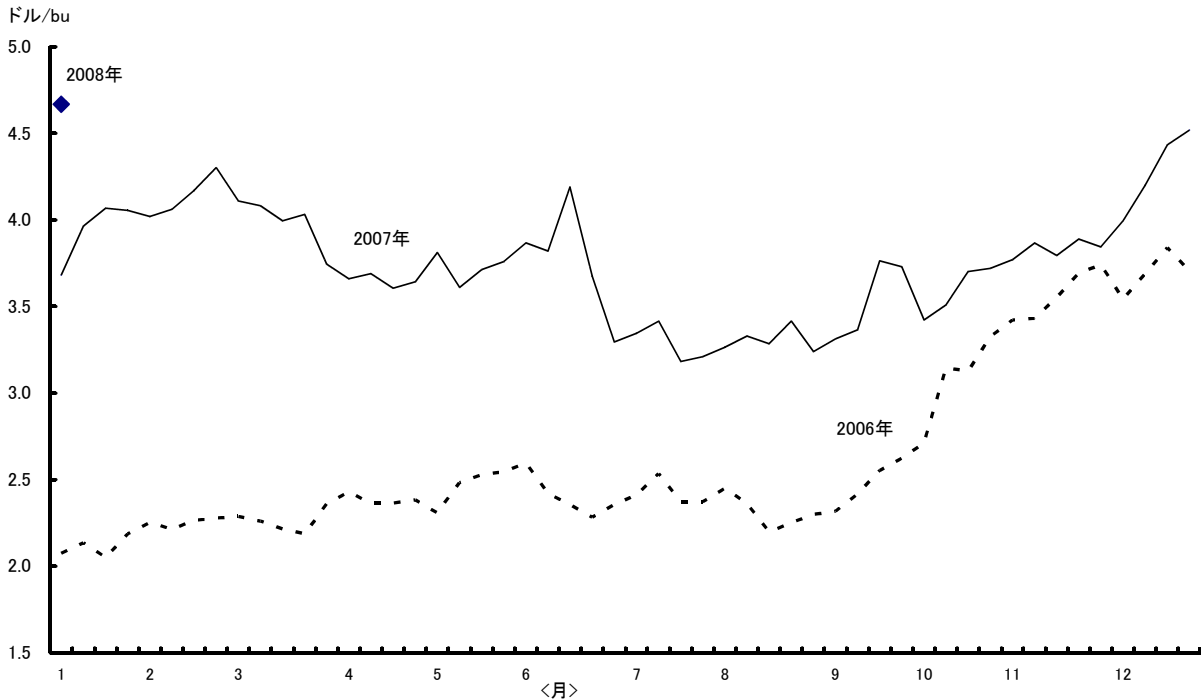
2007年は、4月以降、米国主産地の寒気による被害、ウクライナの干ばつ、その後の米国の降雨による収穫作業の遅れや欧州の天候懸念等から値を上げた。8月以降、カナダや欧州の減産見込みに加え、オーストラリアの干ばつによる減産懸念や旺盛な需要等を背景に9.5ドル/buまで値を上げた後、需要減少により下げに転じた。その後、米国の2008年産冬小麦の乾燥天候による作柄悪化懸念やインド等の輸入の動きで再び値を上げ、12月19日に9.7ドル/buと史上最高値を更新した。その後、小麦の高値による米国の輸出成約の減速懸念からやや値を下げ、現在9ドル/bu前半で推移。



● とうもろこし: 4.67ドル/bu(前年同時期の価格: 3.68ドル/bu)

2006年は、9月中旬以降、米国の降雨による収穫作業の遅れ、オーストラリアの干ばつによる世界的な飼料穀物の供給力悪化懸念等により上昇基調に転じた。

2007年は、3月に入り同月末の米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積増加見込みを受けて値を下げた。6月に入り作付後の乾燥懸念から一時値を上げたが、その後の降雨と6月末の作付面積報告により当初予想以上に作付面積が増加したこと、生育も概ね順調とみられることから値を下げた。9月に入ると、欧州を中心とした飼料用作物の供給悪化懸念と輸入の動きや、原油価格の高騰等を背景に値を上げ、現在は4ドル/bu後半で推移し、11年ぶりの高値。

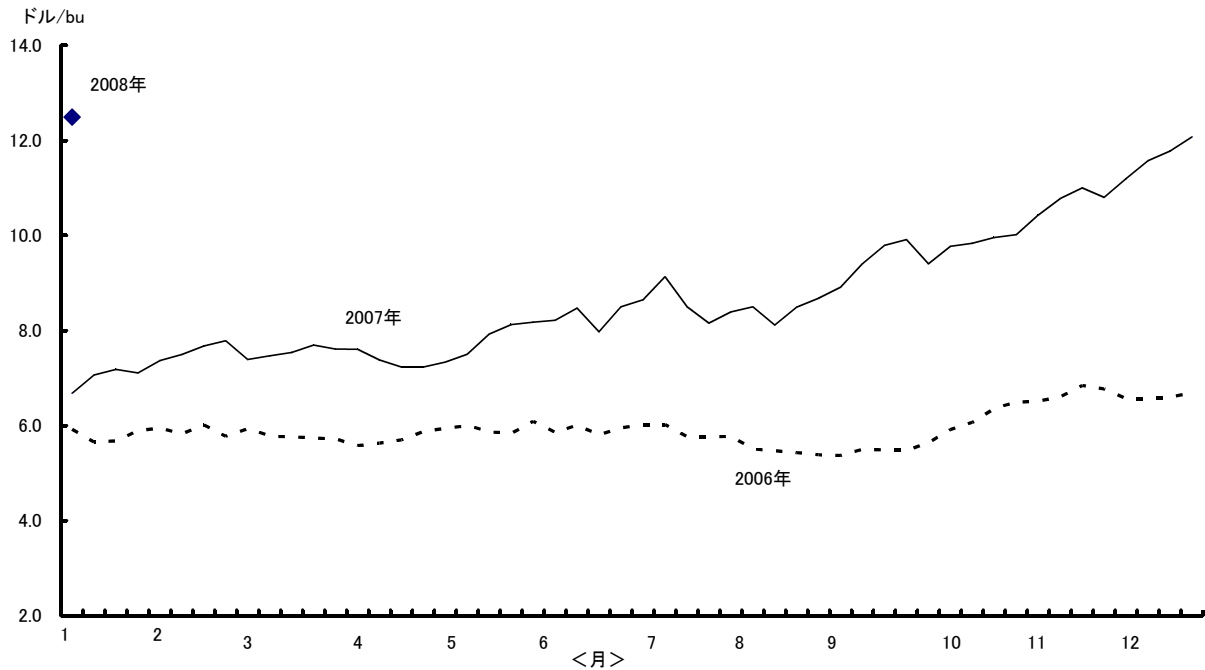


資料:ロイター・ES=時事  
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● 大豆: 12.49ドル/bu(前年同時期の価格: 6.68ドル/bu)

2006年は、米国の期末在庫が潤沢なことに加え、米国における新年度の作付面積の増加が見込まれたこと等から比較的低位で推移したが、9月中旬以降、来年度の米国における作付面積減少懸念等により上昇基調に転じた。

2007年は、3月末の米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積減少見込み、バイオディーゼル原料需要の増加による植物油価格の上昇、6月末の作付面積報告により当初予想以上に作付面積が減少したこと等により徐々に値を上げた。8月後半に入り、米国の一部主産地の乾燥懸念やその後のブラジルの乾燥天候による作付作業の遅れ懸念から値を上げ、10月に入り原油や大豆油価格が上昇し、米国の輸出需要の拡大や中国の輸入拡大等によりさらに値を上げ、12月26日には34年ぶりに12ドル/buを超え、現在は12ドル/bu半ばで推移。

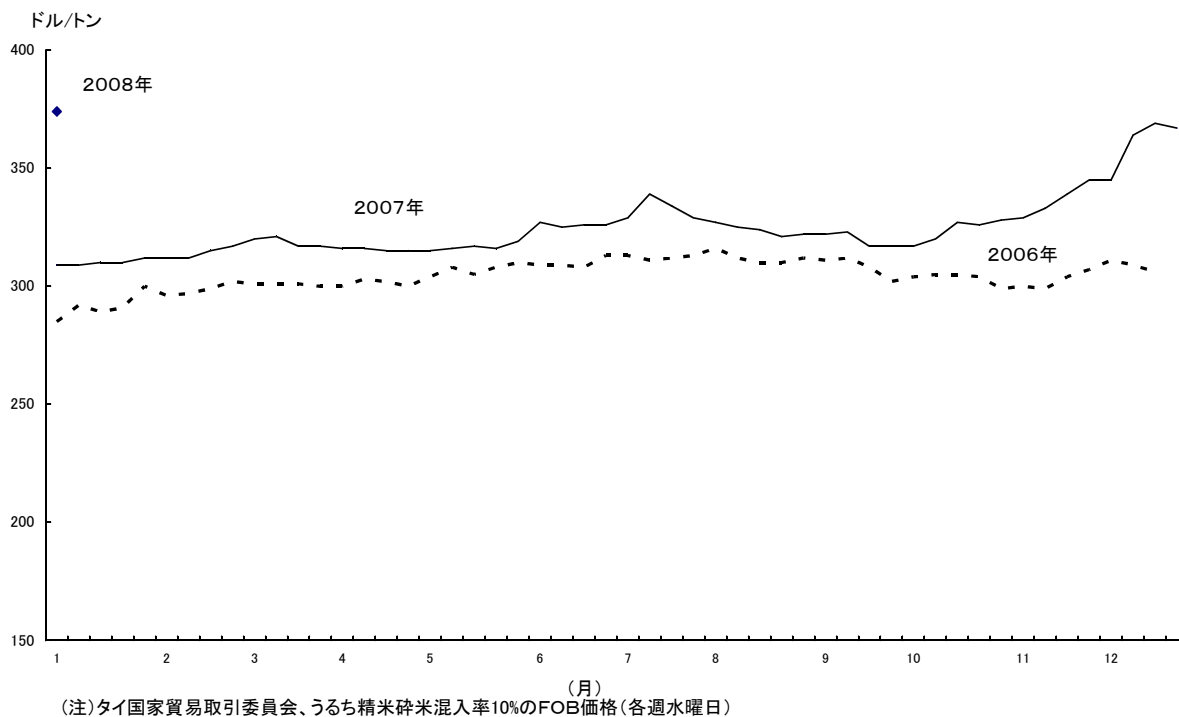


資料: ロイター・ES=時事  
注: シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● 米:374ドル/トン(前年同時期の価格:309ドル/トン)

2006年は、300ドル前後でほぼ横ばいで推移した。

2007年は、6月以降、フィリピン等東アジアでの需要増加に加えイラン、イラク向け輸出の増加など、世界的な需給の引き締まりを背景に値を上げ、その後横ばいで推移したが、11月に入りベトナム、インドの輸出規制の影響で値を上げ、現在は300ドル/トン台後半で推移。



(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年1月	2月	3月	4月	5月
121.94	113.15	107.49	113.26	116.89	120.58	120.45	117.28	118.83	120.73

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月	19年10月	19年11月	19年12月
122.62	121.59	116.72	115.02	115.74	111.21	112.34

注: 東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

14年	15年	16年	17年	18年	19年1月	2月	3月	4月	5月
20.86	35.14	58.99	49.49	41.59	55.58	58.09	68.73	62.02	69.89

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月	19年10月	19年11月	19年12月
72.64	89.51	93.01	100.72	115.23	120.59	118.21

注: 米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)  
2007年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

14年	15年	16年	17年	18年	19年1月	2月	3月	4月	5月
26.08	31.04	44.26	56.56	66.21	54.35	59.39	60.74	64.04	63.53

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月	19年10月	19年11月	19年12月
67.53	74.15	72.36	79.63	85.66	94.63	91.46

注: 内閣府「海外経済データ(平成19年12月)」

19年12月の原油価格(WTI)は「U.S.Energy Information Administration」